

エコーネットコンソーシアム活動状況報告（2022年7月～9月）

分類	活動状況
トピックス	<ul style="list-style-type: none"> ① 新サービス創造データ連携基盤検討会設立 JEITA スマートホーム部会と共同で、スマートホームの IoT 情報を Web 上で扱い ECHONET 2.0 戦略指針にある秩序ある協創空間の仕組みや制度の実現に向けた検討を行う、新サービス創造データ連携基盤検討会を設立しました。 ② ECHONET 機器オブジェクト詳細規定 Release M が IEC 62394:2022 として発行されました。 IEC TC100 で改訂作業が進められてきた IEC62394 Edition 4.0 が、ECHONET 機器オブジェクト詳細規定 Release M に対応する IEC 62394:2022 として発行されました（2022年7月）。 ③ ECHONET Lite および AIF 認証の変更申請規定を変更することになりました。 2022年10月1日から、ECHONET Lite および ECHONET Lite AIF の変更申請が、認証取得後（認証登録番号の新規登録日から）3年を経過した後は申請できなくなります。 ④ ECHONET Lite 規格書およびシステム設計指針の最新版を公開しました。 「ECHONET Lite 規格 Ver.1.14」と「ECHONET Lite システム設計指針第3版」を一般公開しました（2022年9月）。 ⑤ ECHONET Lite Web API の仕様書とツールの最新版を公開しました。 「ECHONET Lite Web API ガイドライン 機器仕様部（第 1.4.1 版）」と「Machin Readable Appendix Release P rev.1 修正版（v1.1.1）」を一般向けに、実験クラウドと「ELWebAPITool」の最新版を会員向けに、それぞれ公開しました（2022年7月、8月）。 ⑥ プラグフェスト開催 9月8日と9日に、神奈川工科大学 HEMS 認証支援センターで第28回プラグフェストを開催しました。
企画運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① ECHONET 機器オブジェクト詳細規定 Release M が IEC 62394:2022 として発行されました。 IEC TC100 で改訂作業が進められてきた IEC62394 Edition 4.0 が、ECHONET 機器オブジェクト詳細規定 Release M に対応する IEC 62394:2022 として発行されました（2022年7月）。 ② ECHONET Lite および AIF 認証の変更申請規定を変更することになりました。 2022年10月1日から、ECHONET Lite および ECHONET Lite AIF の変更申請が、認証取得後（認証登録番号の新規登録日から）3年を経過した後は申請できなくなります。詳細は、会員お知らせの「ECHONET Lite および AIF 認証の変更申請規定が変更になりました」（https://echonet.jp/member/20220908/）に掲載しています。 ③ ECHONET IoT マスター制度の本運用を10月1日より開始します。 昨年度よりテスト運用を行ってきました ECHONET IoT マスター制度を、テスト運用で得られた知見を活かして教材やカリキュラムを改訂し、10月1日より本運用に移行することになりました。
技術委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① ECHONET Lite 規格書およびシステム設計指針の最新版を公開しました。 主にブロードキャスト通信の利用方法を追記した「ECHONET Lite 規格 Ver.1.14」と「ECHONET Lite システム設計指針第3版」を一般公開しました（2022年9月）。 ② ECHONET 機器オブジェクト詳細規定 「ECHONET 機器オブジェクト詳細規定 Release Q（英語版）」を一般公開しました（2022年7月）。 ③ ECHONET Lite Web API の仕様書とツールの最新版を公開しました。 ・ 「ECHONET Lite Web API ガイドライン 機器仕様部（第 1.4.1 版）」と「Machin Readable Appendix Release P rev.1 修正版（v1.1.1）」を一般公開しました（2022年7月）。 ・ ECHONET Lite Web API ガイドライン API 仕様部 Version 1.1.4 と機器仕様部 Version 1.4.1 に対応した実験クラウドを、会員向けに公開しました（2022年7月）。 ・ Web API ガイドライン 機器仕様部 Version 1.4.1 で新規追加された機器に対応した ECHONET Lite Web API 実験クラウド動作確認 GUI ツール「ELWebAPITool」を、会員向けに公開しました（2022年8月）。 ④ プラグフェスト開催 9月8日と9日に神奈川工科大学 HEMS 認証支援センターで第28回プラグフェストを開催し、6社6チームの会員が参加しました。
普及委員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 新サービス創造データ連携基盤検討会設立 ・ JEITA スマートホーム部会と共同で、スマートホームの IoT 情報を Web 上で扱い ECHONET 2.0 戦略指針にある秩序ある協創空間の仕組みや制度の実現に向けた検討を行う、新サービス創造データ連携基盤検討会（略称：サービス連携検討会）を設立しました。第1回全体会議には、26企業、7団体、2大学、および経産省から70名を超える方にご参加いただき、関係者の大きな期待を感じる会議となりました（2022年8月）。 ・ 本検討会では、デジタル田園都市国家構想との連携を大きなテーマとし、全体会議を2か月に1回、詳細を検討する技術仕様SWGと施策検討SWGを1か月に1回開催します。 ・ 活動開始にあたり、IoT データ流通構造やデジタル田園都市国家構想への参加など各社の方向性に関するアンケートを実施し、望ましいアーキテクチャ構造や ECHONET Lite Web API の利用に関する多くのご意見をいただきました。 ② 海外展示会 今年度はアジアの展示会への出展を強化しており、6月の韓国の ESS Expo と9月のタイの Enlit Asia（共にエネルギー関連の展示会）にそれぞれ赴き、現地で出展いたしました。出展報告は、コンソーシアムのウェブサイトに掲載しています。 ③ ウェブサイトとパンフレットの改定 ・ ウェブサイトは、「ECHONET 2.0 特設ページ」を更新し、「関連する団体との活動」として CHAdeMO 協議会および W3C WoT との活動を掲載しました。また、PCHA アライアンスとのデータ連携ガイダンスを公開しました。 ・ パンフレットには、新代表理事のあいさつや新年度の体制、ECHONET 2.0 情報を掲載すると共に、いくつかの情報を更新しました。